

## もう1度訪れたいブルガリア

近畿支部会員 京都市在住

2015年5月28日から6月24日まで、夫とブルガリア、ギリシャを旅しました。旅のきっかけは、昨年ブルガリアサーバスのT(名前略、以後同じ記法)さんが来られて、ブルガリアにもサーバスがあるのを知った事です。Tさんに行くと言うと旅行の計画を立ててくれ、サーバスのメンバーがいない所のホテルも全て予約して下さいました。又、Tさんは3か所に別荘を持っていられて、そのどこにもTさんが仕事を工夫して夫のJさんと一緒に行って下さいました。感謝の他ありません。



バルカン半島で強大な勢力を誇っていたブルガリアは、オスマン朝征服、ソ連の傘下入り、EUに加盟等の曲折を経ているので、異文化が混在した独特の雰囲気がありました。現在EUでは最貧国とされていますが、生活も首都のソフィアを離れると、昔の様式を残しているのどかな安らぎがあり、これぞ人間の生活と思えました。以前は世界遺産は見逃すまいと思っていましたが、今回の旅行でその気持ちが薄れてきました。世界遺産よりのどかさが素敵で、私たちは、又、ブルガリアに行きたいと思っています。

### ソフィア 5月29日～31日 Mr. & Ms. G S & Mr. & Ms. T B



ブルガリアの首都、ソフィアにはブルガリアの人口が集中しており、現代的な大きな町です。近代的なビルの中に、古代都市の遺跡、イスラム寺院、ギリシャ正教の教会、共産党からの解放記念碑、はたまた朝市のようなローカルな所もあり、実に国の歴史と近代化の歩みを実感出来る所でした。

ソフィアから70Km程ギリシャ寄りの山奥に、10世紀に建てられたリラの僧院という世界遺産があります。見事な教会、フレスコ画、本来はひっそりたたずむというわけですが、すごい観光客でした。

ソフィアでは主に私たちの親しい友人、Gさん家族にお世話になりました。奥様はとても料理がお上手で毎日フルコース、ご主人はお酒が好きで毎日いろんな珍しいお酒を飲んで、主人はご機嫌でした。

### コプリフシティツァ 6月1, 2日 TBさんの別荘

コプリフシティツァには、バロック様式と民族復興様式が混じり合った富豪の屋敷が残されていて、昔の見事な雰囲気があり、今も馬車が移動手段に使われていて、タイムスリップしたような素敵な村でした。Tさんの別荘にも昔の農機具等が置かれていて、誠に雰囲気ばっちりです。ここでは毎年夏にヨーロッパの民族ダンスや歌の大会が開かれているので、私たちはもう一度来ようという気持ちになりました。滞在中はハウスミュージアムや村のウォーキングを楽しみました。

### ヒサル 6月3～5日 TBさんの別荘

ヒサルは良い自然水が湧き出る所で、その水はペットボトルに詰められ、外国にも輸出されています。そして、温泉が有名で、ローマ時代から栄えていました。今は老人がリハビリを兼ねて住む施設が整備されています。Tさんも今は仕事上ソフィアに住んでいるが、ゆくゆくはここに住みたいと言っていました。別荘には見事な野菜畑があって近くの人に管理を頼んでいられ、野菜、果物がたわわでした。鶏も地面を這っており、昔の良き生活が残っています。朝の散歩の時には山羊の散歩に出会ったり、近くの山からはパノラマの景色が見られ、素敵な所でした。



### プロヴティブ 6月6日 ホテル

プロヴティブは、ブルガリア第2の都市ですが、人口は38万と少なく、いかにソフィアに人口が集まっているかがわかります。ここは紀元前19世紀にはすでに集落があり、ローマの円形劇場跡等、古い建物も良く保存されていて、新旧入り混じる格調高い美しい街並みでした。街の雰囲気や、バラ祭り後の民族衣装で身を包み、伝統楽器を奏でるパレードを楽しみました。

### ストラザゴラ 6月7、8日 Ms. LG 9日 Tさんの両親宅

ストラザゴラの有名な博物館が休館だったので、Lさんがバラ祭りでは有名なカザンラクを案内して下さいました。バラ祭りは済んでいましたが、花々で飾られた通り、個性的な喫茶店やショップ、薔薇にふさわしい綺麗な町でした。Lさんはブルガリアサーバスの会長でもあられたのですが、今は1人娘をパリの大学へ留学させた時のローンを払うために収入の多くが使われており、サーバス旅行なんてとてもとてもと言われていました。



Tさんのご両親の家はストラザゴラから車で30分位の所にあり、山郷の全く平和な田舎です。どの家も野菜畑、果樹の木があり、鶏も飼っていて、山には湧水があって、汲みに行っています。村の人は公民館に集まって、歌や踊りを楽しんでいます。お母さんが村に日本からお客さんが来ると言われていたので、村を歩いていると、あちらこちらの家からお呼びがかかり、お茶を御馳走になり、楽しい訪問でした。

### ネセバル 6月10.11日 ホテル

ネセバルは黒海に突き出した半島の港町で、紀元前2000年頃から人が住み、交易の諸点でした。町全体が世界遺産に登録されていて、今は観光地として賑わっています。私たちも観光と水泳を楽しみました。ここで大失敗。私たちは海沿いのキッチン付きのホテルに泊まりました。テラスもあるので、海に沈む夕日を見ながら食事をしようと、料理をして、テラスに運びました。ワインを取りに行くと、全ての食事が無い！！何と鳥が飛んできてさらってしまったのです。あ～あ、残念！！

### ヴァルナ 6月12, 13日 TBさんの別荘

黒海に面したヴァルナは夏の首都と言われていて、夏にはバカンスを楽しむために、ブルガリアのみならず、周辺国からも多くの人々が来て、滞在を楽しみます。Tさんの別荘からは雄大な海が眺められ、テラスでの食事は楽しいものでした。海沿いにはプールも完備したホテルがあり、黒海やプールによく出かけました。又、北へ50Km位行ったバルチックには、ルーマニア統治時代の王妃の夏の離宮があり、それを囲んで植物園が作られています。優美な建物、色とりどりの花、目の前に広がる海、抜けるよ

うな青空の元の豊かな空間でした。

**ルーセ 6月14, 15日 Mr. & Mrs. P P**

ルーセはドナウ川を挟んでルーマニアと国境を接する街です。ホストのPさんは実業家で3人の娘さんがいます。奥さんはとてもお料理が上手。奥さんと娘さんで郷土色豊かな踊りを踊って下さり、ブルガリアでは昔から伝わる歌や踊りが生活に溶け込んでいました。1日1往復しかバスが出ていない郊外の中世の町、ツェルバンに行きました。山の上にある城跡が見ものです。幸いバスで城跡の事務所に勤めている人と知り合せて、簡単に現地に行けました。山上の城跡自身も素敵



でしたが、山上からははるかかなたまで見渡せ、多くの戦いが繰り広げられたろうと、歴史に思いを馳せました。昼食は鶏の手羽先のバーベキュー、メニューは簡単ながら、地を這う鶏の何と美味しい事! ビール片手に大満足。昼からもう1度城跡に登りました。2度登った人は初めてだと言われました。

**ヴェリコタルノヴォ 16日 ホテル**



森、丘、川、切り立った磐の美しい自然とブルガリア帝国時代の城壁や遺跡が融和している素敵な所でした。

**ソフィア 17日 Mr. & Ms. T B**

**ギリシャ テッサロニキ 18~20日 Mr. & Ms. D P B**

ホストは牛の牧場の持ち主で、テッサロニキの郊外10Km位の所に住んでいられるのですが、テッサロニキの町を案内して下さったり、いつもテッサロニキのバス停まで送り迎えをして下さいました。

ギリシャ第2の都市、テッサロニキで、まず目に飛び込んだのは、地中海の紺碧の海です。次いで道に溢れんばかりの多くの人々、渋滞の車です。それから恐ろしい事が! 誰かが私の鞆に手を入れたのです。全てが「ギリシャに来た!」という感じでした。

古代からギリシャの都市は城壁によって守られてきたのですが、ここにも城壁が残っています。又、荘厳な教会等3つの世界遺産があり、重々しく素敵でした。広場の名前もアリストテレス広場と歴史を感じる所でした。郊外にベラという昔の首都を訪ねました。発掘された建物の床は素晴らしいモザイクでした。

**ソフィア 21, 22日 Mr. & Mrs. G S**

**旅の全てに有難う! 終わり**